

早くも11号(10号は2年前だった)

ニホン情報紙 1993.1.31. 倉川千代(だいぶ)前)

丁度横浜駅西口に和食レストラン“カツ井”
が昨年十月にオープンした。ココノツイドと
読む。この店、味も
いいが、内装がいいと
のヒヨー・ベン、高く見
学者が押すな押す
なごめととたたない。
なかでキ竹木一キと
ひぐり返して並べ
たよつは両仕切り
とか、ニュロ皮ですか

JR 横浜駅西口

呆痴籠屋新聞

日 本
地方 新聞

所在
于冀州甲鵠川市

陣谷
専任 ナシ
片手向 ハトリ

社是
ナシ
努力目標
ナシ

TEL 04709 (2) 9912

男は「長いよ」とまた何やう口にしていたのだが、本当は「ザクーン」の字も頭にならなかった。学生さん、変な男(用)。

使われて、何十本
の竹がどやも曲がり、
ひねってある。ま、すぐ
なのが竹ではなかった
のか。制作者の根性
がそのままあらわれて、
て、うめださん。それが
が誰なのか、聞くも
らいた。

竹で内装した「スクリーン」

キレ、一な男が、

名古屋芸大で

〔名古屋芸〕
十二月初め、名古屋芸
術大学にて、ザイー科に

ご本のご用命は	TEL 0470-9 C2) 9912	送 料 支 拂 申 時 価
トカラ諸島資料集出版	トランク房へ	
「トカラの地名と民俗」上、下、	合せて ¥4000	
「トカラの伝承」	¥500	
「平島有線放送録記録Ⅰ」	¥1000	著者は元平島々民
「佐世紀島金銭入出帳」	◆品評会	
「佐世紀島部落規定」	¥2000	◆絶版
(ほかにもあつたけどいまは入手す		
「平島有線放送録記録Ⅱ」	◆近刊	

同科のH講師がたゞ
気持ちで呼んで関東
の竹細工師であった。
十数人の在学生と
前にて男は降り出
した。



後人生軒

当新聞も、創刊してはや十余年、発行回数も二桁に突入した。が、その間に熱い読者の声は何を聞こえてこなかつた。しかし、編集者の心はヘーダンタン。「鍵」の声もまた耳に入つてはこない。

「病院へ行こう」と
声を掛けてほしい。
△ △ △
「ニヤニヤ」には
思ひながら、彼女の
会話はあきる二と
が無い。相手は日替
りごみよが、また必ず
無理にもどってくる。
それは一二〇年の
習いである。
△ △ △
ドミテーラのおばさん
と一緒にボリジアの錫
鉱山にもぐり、田代英
助オジと祖父の山中と
逃げ回る。
馬上のレッド・クラウドの
ニエットとジングルーン
の上流で見失ハニス。
ハニスの行進]につづく。

小さな親切気味悪�다
が判明したのでお知らせします。
横浜の四五(三一三)9110
とにくすばんし二店です。(くどいかな?)
そこで、今には坂元
新熊(翁)が見之故日
ご恩石島の荒波と
ながめ、テラス・ウザウ
か「雷宮下三の二度の布林林
の中」こうしたたぬとして
いる。

1992年のベストセラー

- | | | |
|----|----------------|--------------|
| 1位 | 「ゆか魂を聖地に埋めよ」 | ディー・ブラウン |
| 2位 | 「ゴッド - 百年目の真実」 | ディヴィッド・スイーマン |
| 3位 | 「聖なる魂魄」 | 森田ゆう |
| 4位 | 「青春彷徨」 | 福音館 稲垣尚友 |

鴨川・シ・ワースト書店調べ

よしよ「臥蛇鳥詩」

た向う、向うの人々の生
きてきたり足跡を活き写し
にする作業が本年から
開始される。岡山、大阪、
鹿児島本土に散ってい
た旧島民たちが越え
恩^{シテ}繰り返す実在証明
の書^{ハシナガスミシナフ}と
るだけ多くの開拓者の
証言と集めることで、作
業の第一歩となる予定
完成は一つめことわざ。
借収と当社に寄付さ
れたり。